Interop® Tokyo

PREMIUM CONFERENCE

2016.6.8-9

from 12:30-17:50

Think out of the box
～創造力と技術で生みだす未知なる社会～

今年は幕張メッセで開催！

事前登録受付中！

技術を軸とした事業戦略を全20セッションで白熱議論

プレミアムカンファレンス登録がお得に！

	一日券	二日券
早期割引 ※定価の 10%OFF （5月31日（火）17時までにお申し込みの場合）	¥90,000 （税別）	¥162,000 （税別）
通常価格	¥100,000（税別）	¥180,000（税別）

同封のFAX申込用紙かオンライン登録受付中！

事前登録・最新情報はコチラ http://www.interop.jp/

Copyright(C)2016 NANO OPT Media.Inc. All rights reserved.

プレミアムカンファレンスとは？

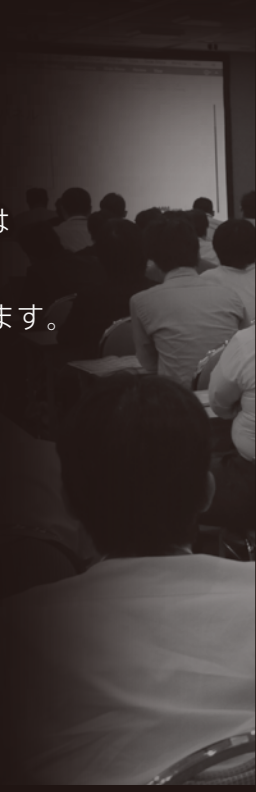
“対話”の中から生まれるビジネス戦略の

1994年から20年以上にわたり毎年開催されている「Interop Tokyo」「Interop」の名前の由来でもある“Interoperability（相互接続性）”を検証する場として、日本のIT市場の成長とともに歩み続けてきました。

近年ではIoT（Internet of Things）のような技術的に実現出来ることだけではなく「技術」と「アイデア」との組み合わせにより新ビジネスとして期待されている一方でまだ具体的な戦略まで落とし込めていないソリューションもあるかと思います。

このような背景を受けカンファレンスではプログラムの中身を大きく改革し「プレミアムカンファレンス」として生まれ変わりました。

これまでのテクニカル技術を軸に残しつつビジネス戦略の企画・策定に資する情報共有、そしてビジネスの第一線でマネジメントを執るエグゼクティブの皆様と厳選した国内トップランクの講師陣とで交わす他に類をみないハイクオリティなインタラクティブセッションを全20セッションで展開します。この機会をぜひ、ご活用ください。



参加特典

特典 1

基調講演への優先入場（3日間）

人気の講演でもスムーズな入場が可能となります。

特典 2

昼食およびコーヒーサービス（2日間）

参加者限定にてランチビュッフェとコーヒーサービスをご提供。
ランチとセッションの合間の時間をはさみながら、参加者皆様の知見と人脈を拡げます。

特典 3

ラグジュアリースペースのご提供（2日間）

ランチ以外のお時間を利用して、雑然とした展示会場では味わえないワンランク上のラウンジスペースとしてリラックスした空間をご提供いたします。PC機器類の充電スペースなども御用意いたしております。

特典 4

特典 5

ヒント

講師との意見交換

当日の会場にて講師があなたの課題や質問に対してお答えいたします。活発な意見交換から得られる数々の課題解決へのヒントを今後のビジネス戦略にお役立てください。

※事前登録におきまして、予め課題や講師へのご質問を受け付けております
※講師からの回答を致しかねる場合もございますのでご了承ください

プレゼンテーションデータのダウンロードサービス

Interop Tokyoではプレミアムカンファレンスでのみ
プレゼンテーションデータのダウンロードを行っております。

※一部のセッションでは講師の都合によりデータの提供がない場合がございます。

Contents

01
プレミアムカンファレンスとは？
参加特典

03
プログラム委員会議長からのご挨拶

04
Interop Tokyo 2016 プログラム委員会

05
プレミアムカンファレンス　スケジュール

07
オススメ基調講演

08
プレミアムカンファレンス／６月８日(水)

13
プレミアムカンファレンス／６月９日(木)

18
参加料金／参加要項

※本ガイド記載情報は2016年4月21日時点のものであり、
内容は予告なく変更される場合があります。
あらかじめご了承ください。

Think out of the box
広がり続ける「コネクテッド・インターネット・エコノミー」

江崎 浩
Interop Tokyo 2016 プログラム委員会議長
東京大学大学院
情報理工学系研究科　教授

DR.HIROSHI ESAKI

Interop Tokyoはインターネットを構成するための相互接続性すなわちInteroperabilityを確立し、それから新しいイノベーティブなビジネスを創生することをそのミッションとして活動を続けています。インターネットは、一般名詞化し、最近のIoTビジネスやビッグデータビジネスにおいては、「ネットワーク接続される」ことをインターネットと呼ぶようになっています。そもそものインターネットは、TCP/IPを核にして、さまざまなデータ転送装置・インフラと、さまざまなアプリケーションサービスを実現する装置とインフラ全体を意味していました。このインターネットを実現した TCP/IPを核にしたシステムは、企業システムやさまざまなサービスシステムに展開され、プライベートシステムとして、新しいサービスや機能を提供するように変化を遂げ、近年は、IoT(Internet of Things)に代表されるような、必ずしも、グローバルなインターネットには、接続されないけれども、コネクテッドな環境を用いたイノベーティブなビジネスが実現されようとしています。このような、コネクテッド・システムは、次の段階において、相互接続され、最終的にはインターネットに接続されることになるでしょう。その時には、従来のインターネット産業だけではなく、すべての産業セグメントが、コネクテッド・システム化され、新しいエコノミー(ビジネス領域)を創生・形成し、さらに、これらのエコノミーがコネクトされ、さらに、グローバル接続した、「コネクテッド・インターネット・エコノミー」を形成しなければなりません。

このような動きに対応するために、Interop Tokyoでは、2016年の開催にあたり、テクニカルプログラムの構成を大きく改革することにしました。カンファレンスへの参加者を、各企業における今後のビジネス戦略を企画・策定する方を主なターゲットとした内容にするというものです。もちろん、Interop Tokyoは、技術を核にするという遺伝子は堅持しますが、技術を核にしたビジネス戦略の企画・策定に資する情報の提供を行うとともに、参加者の皆さまとの議論を行う機会を持つことを目指すことにしました。そのために、セッションの時間を、90分から150分へと約1.5倍にして、より、深い議論が行われるようにしました。多くのベンチャー企業のエグゼクティブをお招きし、どのような新しい潮流が動きつつあるのかを掴んでいただくためのセッションを用意するなど、これまでのインターネットビジネスだけではなく、インターネットを用いた、あるいは、インターネット技術を用いた新しいビジネスプレイヤーの方々を講師としてお招きし、「コネクテッド・インターネット・エコノミー」に関する情報の整理とそれに基づいたビジネス企画とビジネス戦略の考察に資する議論を目指すことにしました。

20世紀のインターネットの方針は、地球上のすべての「人」を繋ぐこと、コネクテッド・ピープル、IP for Everyoneでした。21世紀のインターネットの方針は、地球上のすべての「モノ」を繋ぐ、コネクテッド・シングズ、IoT(Internet of Things)です。IoTは、単に「モノ(Things)」を繋ぐものではありません。「人」がつながることで、たくさんのイノベーションが生まれ続ける環境が構築されました。さらに、「モノ」がつながることで、産業セグメントや社会セグメントの論理的な障壁がなくなることになり、これまで、「コネクテッド」とはなっていなかった、ビジネス・エコノミーが「コネクテッド」な状況になります。これは、新しいビジネス・イノベーションが生まれ続ける環境へと向かいます。これまでつながっていなかった「ヒト」が繋がり、「モノ」が繋がり、そして「カネ」が繋がる。「カネが繋がる」 ということは、エコノミー(経済活動)が繋がるという意味です。2014年のInterop Tokyoのテーマは「To the Next Connected Worldへの挑戦」でした。2015年は、Connected Worldが産み出す、「Connected Economy」への船出をメインのテーマに据えました。この動きを、より、加速させ、Interop Tokyoに関係するビジネス・ステークホルダを拡大することが2016年の方向性になります。

Interop Tokyoは、1994年にスタートし、インターネット関連産業のビジネスの最前線のショールームとしての役割を果たしてきました。既に、インターネットは全世界をビジネス領域とする社会・経済インフラとなりました。2016年は、IoTに代表される新しい可能性を具現化する激しいイノベーションが、新しいビジネスセグメントで模索され、ビジネス化されつつあります。まさに、Think out of the box 広がり続ける「コネクテッド・インターネット・エコノミー」が、これまでのインターネット業界だけではなく、未開の空間とビジネスセグメントをも取り込みながら・巻き込みながら、進行しようとしています。「インターネットの(新たな)覚醒」と言ってもいいかもしれません。

Interop Tokyo 2016に参加される皆様には、この機会を最大限に活用していただき、最先端のICT技術の動向と現状を把握し、ますます加速するインターネット革命を生き抜くに資する、叡智を発見・体験する契機としてご利用いただければ幸いでございます。

Interop Tokyo 2016 プログラム委員会

議長

江崎　浩

東京大学大学院
情報理工学系研究科
教授

副議長

門林　雄基

奈良先端科学技術大学院大学
情報科学研究科
准教授

ファウンダー

高橋　徹

株式会社インターネット戦略研究所
代表取締役会長

アドバイザー

冲中　秀夫

Techno-Visionary 代表
工学博士

砂原　秀樹

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科
教授

近藤　邦昭

株式会社まほろば工房
代表取締役

藤原　洋

株式会社ナノオプト･メディア
代表取締役社長

アドバイザー&エディター

本林　良太

日本電気株式会社
コーポレートマーケティング本部
マネージャー

プログラム委員

石塚　宏紀

KDDI研究所
グリーンクラウド部門
データマイニング応用グループ
研究主査

クロサカ　タツヤ

株式会社企
代表取締役

福智　道一

BBIX株式会社
専務取締役 兼 COO

伊勢　幸一

NHNテコラス株式会社
テクニカルエヴァンジェリスト

田中　邦裕

さくらインターネット株式会社
代表取締役 社長

松田　貴成

インテル株式会社
社長室
社長補佐

大江　将史

大学共同利用機関法人
自然科学研究機構国立天文台
天文データセンター
助教

田丸　健三郎

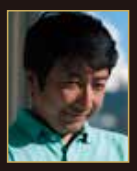
日本マイクロソフト株式会社
業務執行役員
ナショナルテクノロジーオフィサー
技術統括室

満永　拓邦

東京大学大学院情報学環　特任准教授
一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター
(JPCERT/CC)
早期警戒グループ　技術アドバイザー

小野寺　好広

シスコシステムズ合同会社
シニア･ソリューション･
アーキテクト



長谷川　順一

株式会社Preferred Networks
取締役
最高戦略責任者

山下　達也

NTTコミュニケーションズ株式会社
技術開発部
部門長

(以上50音順敬称略　2016年 4 月1日現在)

特典 1　基調講演に優先的にご入場いただけます。　特典 2　ランチビュッフ

6月8日 水

TIME	Room A	Room B
9:40-10:20	基調講演　プログラム委員会が厳選した基調講演をぜひご聴講くだ	
12:30-15:00	**CA-1** 環境知能(アンビエントAI)がもたらす IoTの新潮流 チェア 田丸　健三郎　日本マイクロソフト(株) スピーカー 上田　修功　NTTコミュニケーション科学基礎研究所	**CB-1** IoT実ビジネスへのミッシング・ピース ～セキュリティーリスクに立ち向かう～ チェア 江崎　浩　東京大学大学院 スピーカー 高橋　正和　日本マイクロソフト(株) 小池　浩之　インテル(株) 佐々木　弘志　マカフィー(株) 荻野　司　(一社)重要生活機器連携セキュリティ協議会　他 調整中
Coffee		
15:20-17:50	**CA-2** 実世界の人工知能 ～交通、製造業、ライフサイエンス～ チェア 江崎　浩　東京大学大学院 スピーカー 福田　幸弘　TOTO(株) 宮川　淳一　三菱重工業(株) 岡野原　大輔　(株)Preferred Networks	**CB-2** CSIRTと人材育成 ～企業に求められるサイバーセキュリティ対策～ チェア 満永　拓邦　東京大学大学院／(一社)JPCERTコーディネーションセンター スピーカー 山賀　正人　CSIRT研究家 阿部　恭一　ANAシステムズ(株) 小宮山　功一朗　(一社)JPCERTコーディネーションセンター

6月9日 木

TIME	Room A	Room B
9:40-10:20	基調講演　プログラム委員会が厳選した基調講演をぜひご聴講くだ	
12:30-15:00	**CA-3** IoT時代のアーキテクチャとプログラミング・パラダイム ～エッジ・ヘビー・コンピューティングとディープラーニング～ スピーカー 丸山　宏　(株)Preferred Networks 比戸　将平　(株)Preferred Networks 玉井　孝幸　ファナック(株)	**CB-3** ホワイトボックススイッチの 事業インパクトとリスク分析 スピーカー 本田　和久　アクトン・テクノロジィ 村越　健哉　ヤフー(株) 石田　渉　日本電信電話(株) 他 調整中
Coffee		
15:20-17:50	**CA-4** インダストリアルIoT: 最先端事例を実検証 チェア 中村　秀治　(株)三菱総合研究所 スピーカー 川野　俊充　ベッコフオートメーション(株) 濱口　猛智　日本マイクロソフト(株) 遠藤　雄太　Fog Horn Systems 他 調整中	**CB-4** ホワイトボックス革命: 本格起動するハイパーデータセンタ チェア 江崎　浩　東京大学大学院 スピーカー 田口　栄治　インテル(株) 笠毛　知徳　日本アイ・ビー・エム(株) 他 調整中

ェ(11:00～13:00) ／ コーヒーサービス(15:00～15:20)をご利用いただけます。

Room C	Room D	Room E

さい。(詳細はP7へ)

CC-1

IoTを動かす技術ベンチャー
～ソラコム･Cerevoの創業者が語るビジョンと戦略～

スピーカー
玉川　憲　(株)ソラコム

他 調整中

CD-1

ハイパークラウドネットワークにおける
ボトルネックの変化と投資戦略

チェア
大江　将史　大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台

スピーカー
朝倉　大輔　東京急行電鉄(株)

他 調整中

CE-1

IoTプレミアムハンズオン
～センサデータ取得からクラウドでのデータ分析まで～

スピーカー
佐々木　陽　(株)GClue/(株)ファポ
鈴木　直康　(株)芳和システムデザイン
石塚　宏紀　KDDI研究所

※このセッションは2コマ連続となります

ブレイク

CC-2

2020へのチャレンジ: ビジョンと実現

チェア
クロサカ　タツヤ　(株)企

スピーカー
庄司　昌彦　国際大学GLOCOM

他 調整中

CD-2

サイバーレンジトレーニング
～リーダーの育成とスキルアップの機会提供～

チェア
畑田　充弘　NTTコミュニケーションズ(株)

スピーカー
丸山　満彦　デロイト トーマツ リスクサービス(株)
石川　恒　シスコシステムズ(同)

他 調整中

Room C	Room D	Room E

さい。(詳細はP7へ)

CC-3

FinTech ビジネス
～覇権獲得に向けた主要プレーヤーの戦略～

詳細はWEBへ

CD-3

中国インターネットビジネス最前線:
市場分析と参入シナリオ

チェア
福智　道一　BBIX(株)

スピーカー
家本　賢太郎　(株)クララオンライン
分部　悠介　IP FORWARDグループ
篠　寛　ベリトランス(株)

CE-3

高付加価値を産みだす
Software Defined WAN プラットフォーム

チェア
小室　智昭　NTTコミュニケーションズ(株)

スピーカー
サンジェイ アッパル　VeloCloud, Inc.
アミール カーン　Viptela, Inc.
チャールズ フェルランド　Nuage Networks, Inc.

ブレイク

CC-4

日本発技術志向型ベンチャーの
インキュベーション

詳細はWEBへ

CD-4

ポスト･ムーア時代の到来:
ビジネス構造の進化 ～ 基本事業原理の崩壊 ～

詳細はWEBへ

CE-4

激変するユーザ需要に耐えうる事業インフラ
～ トラフィックとネットワーク構造 ～

チェア
永見　健一　(株)インテック

スピーカー
福田　健介　国立情報学研究所
熊木　健二　KDDI(株)
亀井　聡　NTTコミュニケーションズ(株)
山口　圭介　NTTブロードバンドプラットフォーム(株)

(敬称略)

オススメ基調講演

産・学の両分野のエキスパートである
プログラム委員メンバーが厳選した基調講演をご紹介。

国内外のビッグネームが語る「基調講演」では国内マーケットの動向はもちろんグローバルな視点で見た市場動向と今後の方向性を探ります。貴方のビジネスを飛躍させるためのヒントが詰まったこの機会をプレミアムカンファレンスとあわせてぜひご活用ください。

6月8日(水) 9:40-10:20　KA-01

ソラコムに聞く、同社の戦略と世界を変えるビジョン

田中　邦裕
さくらインターネット株式会社
代表取締役 社長

玉川　憲
株式会社ソラコム
代表取締役社長

田中　邦裕

玉川　憲

6月9日(木) 9:40-10:20　KA-09

近日公開

ジェフ G フェダーズ
インテル コーポレーション
インテル IOTG チーフ・ストラテジスト、OpenFogコンソーシアム プレジデント

6月10日(金) 9:40-10:20　KA-17

ディメンションデータ、その歴史と戦略 NTTの戦略的「グローバル子会社」とは

ビル・パッドフィールド
ディメンションデータ　アジアパシフィック
CEO 最高経営責任者

(敬称略)

その他、多数の基調講演がございます。
※別途事前登録が必要です。

CA-1

6月8日(水)
12:30-15:00

環境知能(アンビエントAI)がもたらすIoTの新潮流

Unleashing new dimensions in IoT through ambient AI

講師 Chair/Speaker

Chair　田丸　健三郎　日本マイクロソフト株式会社

Speaker　上田　修功　NTTコミュニケーション科学基礎研究所

概要 Overview

我が国では、近年、少子高齢化・都市化に伴い、混雑・渋滞などの社会課題がいっそう顕在化しており、その市場規模は加速度的に拡大するとともに巨大なビジネス領域となることが明白となっています。
こうしたストレス社会において、国民生活の質(QoL: Quality of Life)の向上を目指すための研究開発は、我が国の生産性・国力増強という観点から極めて重要であり、我が国における事業性ばかりではなくグローバルビジネスへの可能性を持った領域となることが期待されています。
一方、機械学習や人工知能の研究分野では、これまで個体知能の向上のための分析的・解析的な研究開発が盛んに行われていますが、このような「ミクロレベル」の知能化の研究開発だけでは不十分です。ミクロな構成要素が多数集まった「マクロレベル」で創発される“知能”の実現のための、構成論的な研究開発が必要となり、新しい巨大市場を形成することになります。

本講演では、QoLの向上に資する構成論的な研究開発の一アプローチとして、環境に知能を持たせる「環境知能」(アンビエントAI)をとりあげます。
講演の前半では、従来の機械学習技術をレビューし、次いで、環境知能について具体的に説明します。
後半では、課題解決のための具体的な技術として、「環境知能の実現に必要な機械学習技術」「混雑解消のための人流誘導」などを、デモを交えつつ紹介します。
ミクロレベルの人工知能に加えて、新しいビジネス領域となる「マクロレベル」の人工知能ビジネスの可能性と現状を展望します。

要旨 Point

・従来の機械学習技術
・環境知能とは
・環境知能の実現に必要な機械学習技術
・具体的な課題解決のための技術(混雑解消のための人流誘導　など)

CA-2

6月8日(水)
15:20-17:50

実世界の人工知能 ～交通、製造業、ライフサイエンス～

AI at work: transport, manufacturing and life sciences

講師 Chair/Speakers

Chair　江崎　浩　東京大学大学院

Speakers　福田　幸弘　TOTO株式会社
宮川　淳一　三菱重工業株式会社
岡野原　大輔　株式会社Preferred Networks

概要 Overview

人工知能の技術が実世界に埋め込まれ、私達の生活が大きく変化しようとしています。たとえば「交通」においては、ADAS (Advanced Driving Assistant System)、自動運転領域で、人工知能がさまざまなセンサを組み合わせて空間を認識し、人間よりも安全な制御を実現し、人流、物流に革命をおこそうとしています。
「製造業」においては、産業用ロボットの知能化により、複雑な動作をより少ないティーチングで高精度に作ることができるようになっています。
「ライフサイエンス」においては、バイタルセンサ、遺伝子データ、トイレセンサ等を元に病気を未然に防ぎ、健康な体作りを実現できるようになりつつあります。
これらは、既存の産業構造や関係するプレーヤの構成を大きく変化させることになります。産業構造の「スクラップ＆ビルド」が、IT企業を核にして、水面下で着々と準備されようとしているのです。
本講演では、人工知能が適用される先導的な産業分野とされている、交通、製造業、ライフサイエンス産業での取り組みを紹介し、人工知能の現在の実力と課題、さらにこれからの展望について議論します。

要旨 Point

●人工知能技術の現状
・ディープラーニングの現在と将来の展望
・実現させる上でのハードウェア、ネットワークの必要条件
・どのように人間の能力を超えるのか
●「交通」における応用例
(ADAS (Advanced Driving Assistant System)、自動運転など
・画像・Lidarによる空間認識
・強化学習による自動制御
・集積された経験に基づく
●「製造業」における応用例
(産業用ロボットの知能化など)
・学習に基づく高度な制御
・異常検知
●「ライフサイエンス」における応用例
(バイタルセンサ、遺伝子データ、トイレセンサなど)
・薬の副作用、耐性予測
・遺伝子データに基づく個人化医療
・日常とれるセンサからの健康チェック、予防医療
●総括：現在の課題とこれからの展望

CB-1

6月8日(水)
12:30-15:00

IoT実ビジネスへのミッシング・ピース ～セキュリティーリスクに立ち向かう～

IoT security: risks, challenges and current practices

講師

Chair/Speakers

Chair　**江崎　浩**　東京大学大学院

Speakers
高橋　正和　日本マイクロソフト株式会社
小池　浩之　インテル株式会社
佐々木　弘志　マカフィー株式会社
荻野　司　一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティー協議会
他 調整中

概要

Overview

「超スマートシティー」「インダストリー4.0」「2020年には500億台ものIoT機器のインターネット接続」が予想・期待されている中、すでに工場や小売業界においては、身の周りにいろいろなセンサーが設置され、新しいビジネスの軸となっています。こうしたCPS（サイバー・フィジカル・システム）において、テクノロジの光と影の"影"の部分を悪用するものへの対応は、極めて重要な社会的課題として認識されています。すでに民生機器、組み込み機器から重要インフラシステムまで、幅広くIoT/CPSの導入・検討がされている一方で、ユーザ・消費者・システムを構築する企業は、脅威にさらされているのが実状です。
今後も脅威はますます増加・高度化・複雑化していくことでしょう。とくにCPSを構築・実装・運用する企業にとっては、サイバーセキュリティー機能は、「ビジネス戦略の一環として対応しなければ、事業継続性をも損いかねない致命的な最重要課題」であるとも言えます。
本セッションでは、「IoTプラットフォームレベルの実状と課題」「重要インフラにおけるサイバー攻撃の実状と具体的な対策」さらに「自動車や家電機器などの民生機器における脆弱性・脅威の実状と実態」について議論します。また講演後のパネルディスカッションにおいて、「IoT時代に向けたサイバーセキュリティ対策」に関するナレッジを、受講者のみなさまと共有します。

要旨

Point

・IoT導入事業者のためのセキュリティー・チェックポイント
・事業継続のための リスク管理としての 発注仕様書のガイドライン
・伊勢志摩サミットの経験と2020年に向けた課題
・IoTプラットフォームレベルの実状と課題
・重要インフラにおけるサイバー攻撃の実状と具体的な対策
・自動車や家電機器などの民生機器における脆弱性・脅威の実状と実態
・パネルディスカッション「IoT時代に向けたサイバーセキュリティ対策」

CB-2

6月8日(水)
15:20-17:50

CSIRTと人材育成 ～企業に求められるサイバーセキュリティ対策～

CSIRT and cybersecurity workforce program: success stories

講師

Chair/Speakers

Chair　**満永　拓邦**　東京大学大学院 / 一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター

Speakers
山賀　正人　CSIRT研究家
阿部　恭一　ANAシステムズ株式会社
小宮山　功一朗　一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター

概要

Overview

近年、サイバー攻撃による被害の深刻化が著しく、組織にとって看過できないリスクとなっています。また攻撃の巧妙化に伴い、事前の対策だけで全ての攻撃を防ぐことは困難になってきています。
そのため、セキュリティインシデント（事故）の発生に予め備えて、インシデントの早期発見と被害の最小化を図る「組織CSIRT」を設ける組織が増加しています。
しかし、CSIRTの構築・運用には「正しい教科書」というものがありません。このため、組織内CSIRTに必要な要件や機能が分かりにくく、CSIRT人材の育成と活用をはじめ、構築や運用に関する様々な課題を抱えている方は少なくないでしょう。
本セッションでは、まずサイバー攻撃の現状について説明し、その後、CSIRTについての解説を行います。
最後に、実際にCSIRTを運用されている企業の方から、企業におけるセキュリティの人材育成の事例を紹介します。

要旨

Point

・サイバー攻撃動向と国際連携
・CSIRT の必要性
・ユーザ企業におけるセキュリティ人材育成とキャリアパス

CC-1

6月8日(水)
12:30-15:00

IoT を動かす技術ベンチャー ～ソラコム・Cerevoの創業者が語るビジョンと戦略～

Heralding IoT market: the vision, and the strategies of Japanese IoT ventures

講師 Speakers

Speakers　**玉川　憲**　株式会社ソラコム

他 調整中

概要 Overview

IoT は単なる言葉・コンセプトから、徐々に具体的なカタチを取りつつあります。世界的な大企業を含む多くの企業・組織がIoTへの取り組みを始める中、わが国においても、卓抜な発想と技術力でこの市場に挑むベンチャー企業が存在感を放っています。
技術ベンチャーにとっての IoT の魅力とは何なのでしょう。ベンチャー企業は、なぜ IoT 市場に挑み、どのような戦略と勝算を抱いているのでしょう。

本セッションでは、創業以来IoTの可能性を提示し続け、そのプラットフォームに多くの人々を引き付けている(株)ソラコムの玉川憲氏と、新世代のモノづくりでIoTに取り組む(株)Cerevoの岩佐琢磨氏という、気鋭の技術ベンチャーの創業者二人を迎え、「技術ベンチャーにとってのIoTの現在とこれから」について議論します。

要旨 Point

・ソラコムのめざすIoTプラットフォーム
・Cerevoのめざす新世代のモノづくり

・技術ベンチャーにとってのIoT
　- 魅力
　- 戦略
　- 勝算
・IoTの現在とこれから

CC-2

6月8日(水)
15:20-17:50

2020へのチャレンジ: ビジョンと実現

The challenge toward 2020: the vision, and pathways

講師 Chair/Speaker

Chair　**クロサカ　タツヤ**　株式会社企

Speaker　**庄司　昌彦**　国際大学GLOCOM

他 調整中

概要 Overview

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ICT分野でも様々なチャレンジが企画・推進されています。
特に、モバイル(5G)、映像コンテンツ(4K/8K)、移動・輸送(ITS)は、2020年の東京をグローバルに向けたショーケースと位置づけ、それぞれのロードマップに基づいた取り組みが進められています。
一方で、これらの技術が2020年に登場する時、本当に喧伝されているような技術要件が達成されるのか、また具体的なサービスイメージ、ビジネスモデル、そしてエコシステムがどのようなものになるのか、まだ明確ではありません。
本セッションでは、技術開発と利活用・ビジネスのそれぞれの立場からエキスパートをお招きし、「2020へのチャレンジ」に関するその「ビジョンと現実」を明らかにしながら、ボトルネックの特定と解消によってもたらされるであろう、新たなパラダイムとビジネスチャンスを探ります。

要旨 Point

・5Gで何が変わるのか、何ができるようになるのか(レクチャーベース)
・高度なICTインフラが実現するサービスイメージ(映像、移動・輸送)
・2016年にバズワード化しているAIやIoTはそこにどう寄与するのか(しないのか)

・マイグレーションに伴う現実的な課題(利用者と事業者の双方の視点から)、等
・新たなエコシステムとビジネスチャンスはどこにあるのか

CD-1

6月8日(水)
12:30-15:00

ハイパークラウドネットワークにおける ボトルネックの変化と投資戦略

Leveraging commoditized networking technologies in data centers

講師 Chair/Speakers

Chair　**大江　将史**　大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台

Speakers　**朝倉　大輔**　東京急行電鉄株式会社

他 調整中

概要 Overview

通信回線・ネットワーク機器・クラウド資源などのコモディティ化が進んできました。コモディティ化は費用対効果を唱えるうえで"蜜"ではありますが、その活用にはリスクとノウハウを伴います。通信回線では、10Gbps・1kmあたり4.7万円/年程度で整備できるようになっていますが、「国内光ファイバ網の利用(調達)方法」に伴う効果の変動が課題です。ネットワーク機器では、100GEスイッチングハブ、光モジュール、ネットワークカードなどが低価格化されてきましたが、「低バッファメモリ」や「PPS (Packet Per Second)性能のボトルネック」を回避しての活用が課題となります。クラウド資源では、高速ストレージデバイスが利用可能となっていますが、「オンデバイスでの利用時の低スケーラビリティと拡張性」「iSCSIストレージでの性能のかい離」などが課題となっています。
このセッションは、ビジネスシーンやR&Dにおいて、リスクを理解した上で"怪しいハードウェア"を利活用するためのノウハウを紹介します。
とくに、「データセンタの構成要素としてのコモディティ・ハードウェアの利活用の実態」「費用」「リスク」を中心として説明します。

要旨 Point

●通信回線
- 光ファイバのキャパシティ　都内 vs 地方
- 広域ネットワークの構築
  - コモディティ化されたEDFA (Erbium-doped Fiber Amplifier) の活用
  - 岩手宮城縦貫光ファイバと安価な伝送装置による160Gbps伝送路の実構築
  - 手法
  - リスク

●ネットワーク機器
- 100GE関連周辺機器のベンチマーク
- クラウド設備への展開時のPPSレートボトルネック
- x86サーバ側のI/O飽和
- 中華技術のフル活用

●クラウド資源
- SSDストレージ
- NVMeコンシューマデバイス多積載サーバ vs SATA-SSD RAID構成
- 性能差と保守性
- ゲストOS上での実性能とホストでのベンチマークのかい離

CD-2

6月8日(水)
15:20-17:50

サイバーレンジトレーニング ～リーダーの育成とスキルアップの機会提供～

Cyber-range training for reinforcing skills and leadership

講師 Chair/Speakers

Chair　**畑田　充弘**　NTTコミュニケーションズ株式会社

Speakers　**丸山　満彦**　デロイト トーマツ リスクサービス株式会社
石川　恒　シスコシステムズ合同会社

概要 Overview

2015年1月の『サイバーセキュリティ基本法』の施行を受け、国としても「サイバーセキュリティを自立的に確保できる能力を持つ人材」の育成を急務と捉えています。最近でも、国際的なハッカー集団とみられる攻撃によって「政府機関のホームページがサービス停止に追い込まれる」などのインシデントも、記憶に新しいところです。このような状況に対して、サイバー攻撃の脅威に対抗できるレベルまでセキュリティ技術者の能力を向上させるべく、訓練システムの開発や研究を国を挙げて進めています。とくに、日々進化する攻撃手法に対応するためには、実際のネットワーク環境と同様な仮想空間を用いた、リアリティのある擬似攻撃によるトレーニングが必要とされています。
このセッションでは、高度化するサイバー攻撃によるリスクについて解説するとともに、政府や防衛関係でも採用されている「サイバーレンジトレーニングとはいかなるものなのか？」を聴講者に実際にご覧いただき、企業におけるセキュリティ担当経営幹部にとって大きな課題であり今日の重大な企業リスク項目となっている「セキュリティ人材の養成」の実態をお見せします。

(実際のトレーニング部分は、講師によるデモをお見せします。)

要旨 Point

・サイバーセキュリティに関する現状と人材不足について
　サイバー攻撃による企業活動のリスクの深刻化
　サイバーセキュリティのスキル保有者の人材不足
　サイバーセキュリティ対策の対象分類と検討すべき課題
・サイバーレンジとは？
　サイバーレンジが必要とされる背景と歴史
　サイバーレンジを構成する技術
　日本におけるサイバーレンジの研究開発
・サイバーレンジトレーニングの実見
　ラボ(仮想環境)構成と利用方法
　攻撃ツールによる攻撃と防御例
　ファイアウォールおよび次世代 IPS を使用した攻撃検出演習
　Web セキュリティとマルウェア検出演習
　Eメール セキュリティとマルウェア検出およびデータ漏えい防止演習
　Wireless 攻撃検出演習
　チームによるインシデント対応演習

CE-1

6月8日(水)
12:30-17:50

IoTプレミアムハンズオン ～センサデータ取得からクラウドでのデータ分析まで～

IoT hands-on for strategists: from data acquisition to data analytics

講師 Speakers

Speakers

佐々木　陽	株式会社GClue / 株式会社ファボ
鈴木　直康	株式会社芳和システムデザイン
石塚　宏紀	KDDI研究所

概要 Overview

インターネットは、人類に記憶とコミュニケーション能力の拡張をもたらしました。さらに巨大な市場の創成が期待されているIoTは、「人類が自らの心身を使わずとも、外界にあるあらゆるモノを知覚し、そして操作可能になる世界」をもたらし、我々の社会・産業行動とその構造を根本的に変革してしまう大革命になると考えられています。IoTの発展によって、まず、人類はより物理的に、身体の能力を拡張することになります。
現在のIoTの技術要素は、大きく分けて「あらゆる環境を感知するセンサデバイス」「センサ情報を収集するネットワーク」「膨大なセンサデータを分析するクラウド」の3つから構成されています。これらの3つの技術要素を理解した上で、PDCAを回す能力こそが、IoTビジネスの発展に大きく寄与します。しかし、残念ながら現在これらの3つの技術要素をきちんと理解しているプレイヤーが少ないために、IoTでの勝ち組、すなわち実ビジネスを実現した事例はまだまだ少ない状況なのです。
本セッションでは、3つの技術要素の基礎を参加者自らの手で習得いただくために、参加者に1人1台の『センサデータ取得用ハードウェア』環境を準備し、「データの収集」から「クラウドへのアップロード」、および、参加者によって収集されたデータの「クラウド側での分析」までをセッション中に手を動かしながら実施します。
IoTビジネスにおける基礎技術を満遍なく体感し、事業組織において具体的な施策やビジネス企画・戦略のビジョンを描くために必要となる基礎的で本質的なスキルと、ビジネス企画・戦略を立案するために必須となる肌感覚の習得を目指します。

要旨 Point

・各技術要素における最新動向
・データの収集
・クラウドへのアップロード
・クラウド側での分析

当日持参いただく物

・作業用 PC として、以下のスペックのノート PC をご持参下さい。
- 無線 LAN ポートを実装している物
- SSH プロトコルを利用したリモート接続が可能な物
(Windows の場合は TeraTerm (http://sourceforge.jp/projects/ttssh2/) 等が インストールされていること)
- WEB ブラウザがインストールされている物
(WEB ブラウザの種類は問いません)

(※このセッションは2コマ連続となります)

CA-3

6月9日(木)
12:30-15:00

IoT時代のアーキテクチャとプログラミング・パラダイム ～ エッジ・ヘビー・コンピューティングとディープラーニング ～

Understanding edge-heavy computing and deep learning for IoT

講師 Speakers

Speakers
丸山　宏　株式会社Preferred Networks
比戸　将平　株式会社Preferred Networks
玉井　孝幸　ファナック株式会社

概要 Overview

1兆個のセンサーがネットワークにつながるIoTの世界では、動作環境の動的な質と量に対する変化に追従可能なシステムでなければならないため、従前のV字型開発(ウォーターフォール型開発)では十分に対応することができません。
その結果、開発・運用を(半)自動化するために、デバイスのプログラミングとプロビジョニングに新しい考え方が必要となります。ここで重要になるのが、(1)ITアーキテクチャとしてのエッジ・ヘビー・コンピューティングの考え方と、(2)プログラミング・パラダイムとしての機械学習の技術です。
エッジ・ヘビー・コンピューティングとは、データの処理の大部分がネットワークのエッジ側、すなわちデバイス自身あるいはデバイスに近いステーションで行われる考え方です。このためには、データや計算の場所透過性をもち、また、データの品質や可用性が可変である環境に対応した、新しいアーキテクチャが必要となります。
また、プログラミング・プロビジョニングを半自動化するためには、深層学習や強化学習を組み合わせた、機械学習技術が必須となります。さらに、機械学習を前提としたプログラミングの方法論、すなわち従来のソフトウェア工学に対応する、機械学習工学とも呼ぶべきテクノロジーも同時に必要となります。
本セッションでは、IoTの動向を俯瞰したうえで、これらの技術を前提にした、IoT時代の新しいアーキテクチャとプログラミング・パラダイムの概要を解説し、次の段階のIoTビジネスの方向性を考えるために必要な知見と知識を具体的なビジネス事例とともに習得することを目的にしています。

要旨 Point

・エッジ・ヘビー・コンピューティングと、プログラミングパラダイムとしての機械学習
・エッジ・ヘビー・コンピューティングを実現するソフトウェア
・機械学習の活用による次世代のファクトリー・オートメーション（仮）
・鼎談（会場からの質問をベースに）

CA-4

6月9日(木)
15:20-17:50

インダストリアルIoT: 最先端事例を実検証

Industrial IoT: case studies dissected

講師 Chair/Speakers

Chair
中村　秀治　株式会社三菱総合研究所

Speakers
川野　俊充　ベッコフオートメーション株式会社
濱口　猛智　日本マイクロソフト株式会社
遠藤　雄太　Fog Horn Systems

他 調整中

概要 Overview

「"もの(Things)"を繋ぐこと」が産業むけIoTの代名詞となり久しいですが、すでに世の中は次のフェーズへと移行しています。それは「ものの声"データ"を、どうハンドリングし、有効に活用していくか」です。
現行のIoTではクラウドにおけるデータの活用が主流とされていますが、産業むけIoTでは、クラウドに加えて「現場での1次データの活用が如何に可能か」が重要になります。
このセッションでは、次世代の産業むけIoTソリューションを占うべく、「現場でデータが生まれるところ」から「クラウドに至るまで」のそれぞれの取り組みや連携を、OT (Operational Technology)とIT(Information Technology)の双方の代表的企業を交えて、オープンにディスカッションしていきます。
また事例についても積極的に紹介し、「最前線の現場では何が起こっているのか」について、理解を進めます。

要旨 Point

・Industrial IoT(IIoT) の実際と各国の状況 - BECKOFF
・IIoTの各現場での取り組み
・製造現場でのIIoT
・クラウドからみたIIoT
・双方を繋ぐフォグコンピューティングの役割
・パネルディスカッション

CB-3

6月9日(木)
12:30-15:00

ホワイトボックススイッチの事業インパクトとリスク分析

White-box switches: their impact, and their risks

講師 Speakers

Speakers
本田　和久　アクトン・テクノロジィ
村越　健哉　ヤフー株式会社
石田　渉　日本電信電話株式会社

他 調整中

概要 Overview

専業メーカ独占だったネットワーク製品も、新たな時代を迎えつつあります。オープンソース化や仮想化・SDN/NFV化をきっかけに、いまや汎用ASIC、ルーティング・スイッチングOS、BIOSすらも、クローズドプラットフォームの時代に終わりを告げようとしています。
そうした中、話題となっている"ホワイトボックス"は、廉価なコンピュータ、サーバ、ネットワーク機器として、着々と市場に定着しつつあります。ソフトウェアによるプログラムでトラフィックを制御できれば、もはや一定の性能さえあればハードウェアの機種は問われなくなり、コモディティ化が進んでいくことでしょう。
また、ホワイトボックスを顧客の要求仕様に仕上げて直接販売するODMベンダ(Original Design Manufacturing:設計も手掛ける)の台頭も、従来からの専業ベンダ、OEMベンダ(生産のみ)を脅かしています。
しかしこういったオープン化の流れは、実際のところユーザに何をもたらすのでしょう?オープン化によって得られるであろうコスト削減の反面で、製品の性能や運用性は犠牲にならないのでしょうか?
本セッションでは、ODMベンダ、レイヤ2/レイヤ3のネットワークOSベンダ、導入ユーザが一同に会して、ハードからOSまで、今後の方向性を検証します。ホワイトボックススイッチの時代はほんとうに来るのか?これまでの設備投資の常識が変わろうとしている"今"を、明らかにしてまいります。

要旨 Point

・ホワイトボックススイッチの国内外での利用動向
・ネットワーク機器のコモディティ化の方向性
・オープン化が進むスイッチソフトウェアの現状
・ホワイトボックススイッチ分析　ハードウェア編　ODMベンダ
・ホワイトボックススイッチ分析　ソフトウェア編　OSベンダ
・ユーザから見たホワイトボックススイッチの実際

CB-4

6月9日(木)
15:20-17:50

ホワイトボックス革命:本格起動するハイパーデータセンタ

White-box revolution: hyperscale data center lift-off

講師 Chair/Speakers

Chair
江崎　浩　東京大学大学院

Speakers
田口　栄治　インテル株式会社
笠毛　知徳　日本アイ・ビー・エム株式会社

他 調整中

概要 Overview

ビッグデータ、IoT、クラウド、人工知能が「インターネット産業の次のイノベーション」であると広く認識される中、これまでの「ベンダー主導のアップストリーム型」のシステム設計から、「プロバイダ主導のダウンストリーム型」さらに「DevOps型」へと、データセンタの大革命が進行しつつあります。とくに「コモナリティー」化した最先端のハードウェア・ソフトウェアシステムは、それらを"上手に"組み合わせることで、プロバイダが必要とする"カスタマイズされた"システムを、安価に構築可能としました。
このような動きは、これまでの「モジュール化とインターフェイスの抽象化」に基づいたサーバシステムのシステム設計・実装を、根本的に変革しつつあります。それに替わって、「柔軟性とコストパフォーマンスを実現したコモナリティー技術」が駆使されてきているのです。そうした革命的なサーバアーキテクチャの議論が、ハイパージャイアントとハードウェア/ソフトウェアベンダーとの密結合によって、精力的に推進されています。
本セッションでは、Facebookが推進する『OCP (Open Compute Project) 』と、Googleが推進する『OpenPOWER Foundation』を取り上げます。これらのコンソーシアムにおいて、システムの設計・実装をリードしているメインプレイヤー企業のシニアエンジニアを講師として招聘し、本格起動する「データセンタにおけるホワイトボックス革命」の実態を、技術とビジネスの両面から議論します。

要旨 Point

・劇的進化を遂げようとしている DevOpsモデルに基づいた ハイパーデータセンタ構想
・まったく新しいビジネスパートナー構造が ハイパージャイアントを核に再構築
・既存IT機器提供ベンダーの苦悩と出口
・エネルギー問題は、省エネから熱密度向上と熱対策へと変化
・Facebookが推進する『OCP (Open Compute Project) 』
・Googleが推進する『OpenPOWER Foundation』
・パネルディスカッション「データセンタにおけるホワイトボックス革命」

CC-3

6月9日(木)
12:30-15:00

FinTech ビジネス ～覇権獲得に向けた主要プレーヤーの戦略～

Driving FinTech forward: holistic look at the strategies of key players

講師

詳細はWEBをご確認ください。

概要 Overview

“元年”と呼ばれた2015年から年が明けても、依然としてめまぐるしいサービスモデル・システムの開発、そして、新しいビジネスアライアンスの挑戦が続いている。これまでビジネスエコシステムに取り込まれていなかった新しいプレイヤーから形成される超巨大市場を創出するFinTech産業。2016年は、これまで以上に過熱気味の期待や話題先行の傾向の一方で、「技術的な知見共有の広がり」「着実に顧客を獲得し成長を遂げている企業」、そしてビジネス戦略にとって重要な鍵となる「政府・金融当局の意向」などが入り混じり、市場の見通しがますます混沌となってきています。ある意味、「群雄割拠の戦国乱世」にあり、ビジネス戦略の策定と実装にとって視界不良の状況にあります。

そこで、本セッションでは、今現在活躍するFinTechの核となる主要プレイヤーの実務者を招き、FinTechの現状を地に足を着けつつ業界を大局的に鳥瞰した議論を行います。
どういった技術、どのようなプレイヤーが、FinTech業界を牽引し、さらに、それぞれのプレイヤーが混沌とするこの市場で何を意図して市場への情報発信や具体的なビジネスステップを踏もうとしているのか。実務者として肌で感じている市場の過去と現在について概観し、それぞれの視点から導き出される今後の市場展望について存分に語り尽くします。

要旨 Point

・FinTechの技術
・Fintechのプレイヤー：それぞれの意図
・実務者から見た市場の過去と現在

CC-4

6月9日(木)
15:20-17:50

日本発技術志向型ベンチャーのインキュベーション

Exploring the ecosystem of technology ventures in Japan

講師

詳細はWEBをご確認ください。

概要 Overview

人口減少社会を迎える中、日本社会は成熟とともに様々な課題に直面する「課題先進国」と認識することができます。
この状況下で、大企業には持ちえない視点と果敢で迅速な決断と実行、そして確かな技術を武器に活躍する、活力ある技術ベンチャー企業への期待は、技術を核にした地域創成の実現など、戦略的な国家施策としても注目されています。
しかし、そうした技術ベンチャーが数多く起業するような状況は、果報を寝て待つだけでは決して実現することはできません。
本セッションでは、次世代に羽ばたく技術ベンチャーを生み出すための取り組みについて、「技術ベンチャーへの直接的な支援」や「よりマクロなエコシステムの構築」「国としての政策」まで、産官学の識者・当事者がその経験から深化させた豊富で実務的で本質的な知見を元に議論します。

要旨 Point

・技術ベンチャーへの支援
・マクロなエコシステムの構築
・国としての政策

CD-3

6月9日(木)
12:30-15:00

中国インターネットビジネス最前線：市場分析と参入シナリオ

Inside Chinese Internet business: market insight and engagement strategies

講師

Chair/Speakers

Chair　**福智　道一**　BBIX株式会社

Speakers
家本　賢太郎　株式会社クララオンライン
分部　悠介　IP FORWARDグループ
篠　寛　ベリトランス株式会社

概要

Overview

「中国でのインターネットビジネス」というと、とかく「難しい／無理」というイメージが先行していることが多いです。アメリカや日本におけるインターネットの常識では、中国に進出し、失敗した事例が多いのも事実であり、これが、多くの企業におけるトラウマになっています。
実際、多くの企業が、中国への進出を最初から検討しない場合も少なくないようです。さらに、過去の中国に対するイメージや過去のビジネス経験が、実際の根拠も検証もない「都市伝説化」してしまっているものも存在するようです。
これは、中国の最新のビジネス構造に関する情報が不足していることと、誤った情報が依然として参照されていることに起因しています。
例えば、中国政府の施策や規制は、ドラスティックに変化しており、これを利用した革命的なオンラインサービスやTencentやアリババ(阿里巴巴集団)が創出した超大規模なFinTechビジネスが形成・展開されています。「ビジネスの慣習やノウハウを習得していれば、出来ないこともない」のが、『いまの』中国でのインターネットビジネスなのです。
本セッションでは、すでに、グローバルに米国に追いつき、多くのビジネスセグメントにおいては既に世界一のビジネス規模と極めてダイナミックな市場形成と展開を持つに至っている中国のインターネット産業の現状と方向性、その中でのビジネスノウハウなどを、インフラ面／知財面／ECプラットフォームのそれぞれの立場から見て、議論を展開していきます。

要旨

Point

詳細はWEBをご確認ください。

CD-4

6月9日(木)
15:20-17:50

ポスト・ムーア時代の到来：ビジネス構造の進化 ～ 基本事業原理の崩壊 ～

Embracing post-Moore apocalypse in the business context

講師

詳細はWEBをご確認ください。

概要

Overview

半導体業界の不断の努力によって、集積回路の性能は向上し続け、我々が携わるIT、ひいてはその受益者である社会は、その恩恵に預かって発展してきました。
それを象徴しているのが「ムーアの法則」であり、これまでのすべてのIT企業における基本事業原理となっていました。
しかし近年、この「ムーアの法則」に基づく性能向上が鈍化することが予測されていましたし、これが、現実化しつつあります。これまでのような形で計算資源を確保・増強することが困難となり、事業プランの策定にさまざまな影響が現れてくることになると指摘されています。既に、この基本事業原理の崩壊を認識し、その対策に秘密裏に着手し、その具体的解決法を先導しようとしている先端企業(グーグル社など)も出てきています。
ムーアの法則は本当に終わるのでしょうか。終わるとすればそれはいつのことなのでしょう。誰に、どのような影響がありうるのでしょう。どのような対応策が考えられるのでしょう。回避策はあるのでしょうか？
計算資源をさまざまな形で社会に届けることを生業とするIT業界にとって、避けては通れないこのムーアの法則の後、すなわち「ポスト・ムーア」の世界について、各方面の当事者を招いて議論します。

要旨

Point

・「ムーアの法則」限界説
・その影響
・対応策・回避策

CE-3

6月9日(木)
12:30-15:00

高付加価値を産みだす Software Defined WAN プラットフォーム

Software-defined WAN: success stories and market outlook

講師 Chair/Speakers

Chair　**小室　智昭**　NTTコミュニケーションズ株式会社

Speakers　**サンジェイ アッパル**　VeloCloud, Inc.
アミール カーン　Viptela, Inc.
チャールズ フェルランド　Nuage Networks, Inc.

概要 Overview

クラウド時代の本格化は、拠点間トラフィックの増大を招き、それに伴うWANの回線コスト・運用管理コスト(OPEX)の削減が、課題として持ち上がってきています。たとえば、「回線使用率の向上」「QoS/SLAに即した回線選択」「バックアップ回線の平常時での有効活用」「バーストトラフィックへの低コストでの対応」「作業員を現地派遣せずにすむ設定/制御」などが実現できれば、拠点間通信や運用管理コストの最適化が期待できます。まさにこういった「企業ネットワークの効率性・運用性を飛躍的に向上できる新しいWANの形」として、昨年のInterop Tokyo 2015において注目を集めたのが、『SD-WAN(Software Defined WAN)』です。SD-WANでは、「企業データのような重要なデータはMPLS回線を利用」「ビデオ会議のようなリアルタイム性を求められるSaaSアプリケーションはブロードバンド回線を利用」といったトラフィックの振り分けも、遠隔地から簡単に設定することができます。遠隔地にあるコントローラから、CPE(各拠点に設置された、複数の回線を終端する装置)を設定/制御することによって実現します。しかし、SD-WAN市場は立ち上がったばかりであり、日本での導入実績はまだあまり多くありません。一方で米国は、SD-WANベンダー輩出の主要国であり、導入事例が多く、通信業者との連携も進んでいます。そこで本セッションでは、市場でリーダー的な存在となっているSD-WANベンダーを米国から直接招き、「SD-WANの市場トレンド」「自社のSD-WANソリューションの特徴」「米国での導入実績」「今後の日本市場での展開」などについて、パネルディスカッション形式で参加者の方々に情報をお届けします。

要旨 Point

・モデレーターによるSD-WAN市場概況
・登壇企業によるSD-WANソリューションの特徴やマーケット分析の状況の説明
・モデレーターによる質疑応答
・米国におけるSD-WAN市場について
・米国キャリアのSD-WANの取り組み状況について
・企業ユーザーのSD-WAN導入実績
・日本におけるSD-WAN市場の期待
・参加者からの質疑応答

CE-4

6月9日(木)
15:20-17:50

激変するユーザ需要に耐えうる事業インフラ ～トラフィックとネットワーク構造～

Provisioning network infrastructure for agility and scale

講師 Chair/Speakers

Chair　**永見　健一**　株式会社インテック

Speakers　**福田　健介**　国立情報学研究所
熊木　健二　KDDI株式会社
亀井　聡　NTTコミュニケーションズ株式会社
山口　圭介　NTTブロードバンドプラットフォーム株式会社

概要 Overview

スマートフォンの普及やコンテンツのリッチ化によって、モバイル環境を始めとして、インターネットのトラフィック需要が急速に高まっています。この需要増は、モバイル網だけではなく、公衆Wi-Fiや、家庭やオフィスで使用されるいわゆる固定網でも同様の傾向にあります。
さらに今後も継続して、トラフィックが増え続けることが予想されています。これはいわば、インターネットの利用傾向が、日々刻々と変化し続けていくことを意味しています。

そこで本セッションでは、まず「今後にむけてのモバイル・固定などのインターネットのトラフィック事情」を、各専門家の視点から分析します。その上で「今後のインターネットの活用にあたっての技術的な課題」と、「今後変化していくであろう様々なビジネスに耐えうるネットワーク環境をどのように利用者に提供するか」について議論していきます。

要旨 Point

・固定のトラフィック総量
・モバイルオフロードの有効性とその実態
・モバイルでの利用アプリ
・固定・モバイル/無線LANのトラフィック
・固定網のユーザから見たOTTトラフィック
・公衆無線LANのトラフィック
・2020年に向けたインターネットの品質確保の方向性
・今後のインターネットの活用にあたっての技術的な課題
・今後の様々なビジネスに耐えうるネットワーク環境とは

プレミアムカンファレンス参加料金（税別）

	一日券	二日券
早期割引 **※定価の 10%OFF** （5月31日（火）17時までにお申し込みの場合）	¥90,000	¥162,000
通常価格	¥100,000	¥180,000

【ご注意】
※上記お申込項目および各種パッケージ料金は、同一の方のご利用を前提としています。
※同一時間帯のセッションを受講することはできません。
※1枚の受講証内に受講セッションを全て記載してお渡しする形となり、複数名で分割してのご利用は出来ませんので予めご了承ください。
※必ず受講される方お一人につき、上記料金をお支払ください。
※会場にてご本人確認を行わせていただく場合がございますのでご了承ください。

プレミアムカンファレンス参加要項

登録方法 ▶ 同封の FAX 申込み用紙 または オフィシャルサイトよりご登録ください

なお、オンライン登録の場合のみお支払い方法は銀行振り込み・クレジットカードのいずれかをお選びいただけます。
FAX 申込用紙にてご登録の場合には、お支払い方法は銀行振り込みのみとなります。
※請求書については、登録完了後に送られる事務局からのメールをご確認ください。

登録に関する注意とお願い

●会場の席数には限りがあり、登録者多数の場合ご参加いただけない場合もございます。
●プログラム一覧をご熟読の上、お申込みください。時間帯が重なるセッションは登録いただけませんので、セッション選択時に十分ご注意ください。
●セッション資料の販売はいたしておりません。ご登録いただいた方は、別途ご案内するマイページからダウンロードしていただけます。
●スケジュールおよび内容は、一部変更になることがあります。会場の場所と併せて、当日お渡しするガイドブック及び資料で再度ご確認ください。

5月31日（火）17:00までにお申込みいただきますと、早期登録価格にてご利用いただけます。
5月31日（火）17:00以降のお申込みにつきましては、通常価格でのご利用となりますのでご注意ください。

●ご入場範囲
プレミアムカンファレンスにご登録いただいた方は、プレミアムカンファレンス受講証にて、幕張メッセ会場で開催される展示会場にも無料でご入場いただけます。

お問い合せ先

プレミアムカンファレンス事務局
（株式会社ナノオプト・メディア内）
TEL:03-6431-7802　FAX:03-6431-7850　june-conf@f2ff.jp
受付時間 :10:00～18:00（月～金）※土日祝日除く

ご登録はこちら

Interop Tokyo 2016
http://www.interop.jp/

●JR 京葉線「海浜幕張駅」下車 徒歩 5 分
●JR 総武線「幕張本郷駅」下車 バス 15 分